

製品名: GATA-1 (リン酸化Ser310) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04724**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,ELISA |
| 反応性 | 人間、マウス、ラット、サル |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | リン酸化 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

希釈倍率 WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | GATA1 |
| 別名 | GATA1; ERYF1; GF1; Erythroid transcription factor; Eryf1; GATA-binding factor 1; GATA-1; GF-1; NF-E1 DNA-binding protein |
| 遺伝子 ID | 2623.0 |
| SwissProt ID | P15976 |
| 免疫原 | 抗血清は、ヒト GATA1 の Ser310 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 277-326 |

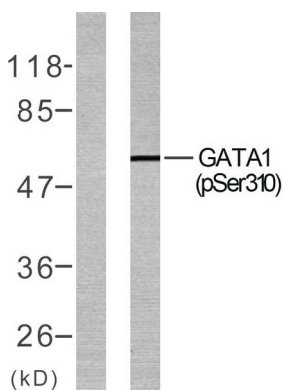
背景

この遺伝子は、GATA 転写因子ファミリーに属するタンパク質をコードしています。このタンパク質は、胎児ヘモグロビンから成人ヘモグロビンへの転換を制御することで、赤血球系の発達に重要な役割を果たします。この遺伝子の変異は、X連鎖性赤血球異常性貧血および血小板減少症と関連付けられています。[RefSeq 提供、2008年7月]、疾患：GATA1の欠陥は、X連鎖性赤血球異常性貧血および血小板減少症 (XDAT) の原因です[MIM:300367]。XDATは、赤血球の大きさと形状の異常、および末梢血中の血小板の減少を特徴とする疾患です。骨髄には、異常に小さな巨核球が豊富に含まれています。、疾患：GATA1の欠陥は、X連鎖性血小板減少症βサラセミア (XLTT) [MIM:314050]の原因です。XLTTは、血小板減少症、血小板機能不全、溶血、およびグロビン合成不均衡とも呼ばれます。この疾患は、βサラセミアを伴う血小板減少症のまれな形態です。患者は脾腫および点状出血、中等度の血小板減少症、血小板機能不全による出血時間の延長、網状赤血球増多、およびβサラセミア軽症に類似した(ヘモ)グロビン鎖合成不均衡を有します。、ドメイン：2つのフィンガーは機能的に異なり、特異的かつ安定したDNA結合を実現するために協力します。最初のフィンガーは結合の完全な特異性と安定性にのみ必要ですが、2番目のフィンガーは結合に必要です。、機能：赤血球分化の一般的なスイッチ因子として機能すると考えられる転写活性化因子。グロビン遺伝子および赤血球細胞で発現する他の遺伝子の調節領域内のコンセンサス配列 [AT]GATA[AG] を持つ DNA 部位に結合します。、PTM：セリン残基が高度にリン酸化されています。Ser-310のリン酸化は赤血球分化時に促進されます。Ser-142のリン酸化はLys-137のSUMO化を促進します。、PTM：Lys-137のSUMO化はSer-142のリン酸化およびPIAS4との相互作用によって促進されます。SUMO1によるSUMO化は転写活性に影響を与えません。、類似性：2つのGATA型ジンクフィンガーを含みます。、サブユニット：ZFPM1と相互作用します(N末端ジンクフィンガーを介して)。GFI1Bと相互作用する。PIAS4と相互作用し、SUMO化を促進し、SUMO化非依存的に転写活性化活性を抑制する。、組織特異性：赤血球。、

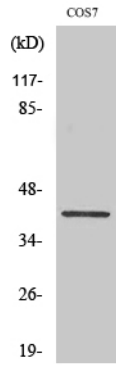
研究分野

タンパク質アセチル化

画像データ



EPO処理したCOS7細胞ライセートのGATA1 (リン酸化Ser310)抗体を用いたウェスタンブロット解析。左のレーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 に希釈した Phospho-GATA-1 (S310) ポリクローナル抗体を用いた各種細胞のウエスタンブロット解析。